

登録コード	E2160900	開講年度	2026	県内大学開放授業				
授業科目	法律学基礎				担当教員	関 良徳		
英文授業名	Introduction to the Study of Law & Society				副担当			
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・4時限		対象学生	2-4年生
講義室	教育M301講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目		備考	
信大コンピテンシー該当								
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】			
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ							
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				・社会的事象について公正・公平な判断を行い、正義にもとづいた行動を実践するための基礎的な能力を身につける。			
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				・私たちの身のまわりの法律について理解を深めると同時に、法律的な考え方の基礎を身につける。			
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	この授業では、私たちの日常世界で生じている法律問題とその背景について概説する。それぞれの問題について、法律上、いかなる取り組みがなされているかを説明する。現在の法制度や法的対応が抱えている問題点を指摘し、改善策を検討する。身近な法律問題に自分なりの解決を示すとともに、他の受講生との討論からより公正な判断を導き出すための問題解決型学習を行う。本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいる。							
(5)授業計画	第1回：自己決定と法：法律的な考え方の基礎にある「自己決定（権）」について概説する。 第2回：消費生活と法（1）：消費生活における契約と約款の問題を様々な事例から学ぶ。 第3回：消費生活と法（2）：消費者契約法や小額訴訟について事例を通して考える。 第4回：模擬裁判[1]：自己決定権に関わる事例を裁判形式で検討し、その問題点を探る。 第5回：家族と法：家族をめぐる法的問題（夫婦別氏など）について説明する。 第6回：子どもと法（1）：児童虐待への法的取組みについて学ぶ。 第7回：子どもと法（2）：少年犯罪及び少年法について概説する。 第8回：模擬裁判[2]：家族法や少年法に関する事例を裁判形式で検討し、各論点について考える。 第9回：犯罪と法：犯罪と刑罰に関する法律や今日の治安問題について解説する。 第10回：裁判員制度：裁判員制度の概要について学ぶ。 第11回：医療と法：代理出産や安楽死・尊厳死などの問題について概説する。 第12回：模擬裁判[3]：刑事事件を裁判形式で検討し、その仕組みを学ぶ。 第13回：労働と法：労働契約と労働環境に関わる諸問題について概説する。 第14回：法教育：法教育の模擬授業を行い、法教育を体験する。 （授業最終回で授業アンケートを行う。） 定期試験 ＊教育実習等での欠席者に対しては、適宜レポート課題での補講を実施する。							
(6)成績評価の方法	・社会的事象について公正・公平な判断を行い、正義にもとづいた行動を実践するための基礎的な能力を身につけているかを測る小レポート（30％）及びレフレクション・レポート（20％）。 ・私たちの身のまわりの法律について理解を深めると同時に、法律的な考え方の基礎を身につけているかを測る最終レポート（50％） ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀, 89-80％ 優, 79-70％ 良, 69-60％ 可, 59％以下 不可							
(7)成績評価の基準	授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」。							
(8)事前事後学習の内容	授業の最後に次回の事例を示し、その事例に関して、授業内容の復習を兼ねた課題レポートを作成する。 この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。							
(9)履修上の注意	・講義で与えられた課題について、その論点について調べるとともに自分なりの見解や解決方法を準備する。 ・必ず新聞に目を通し、日常の法的問題について関心を高める。 ・出席は勿論だが、私語・携帯電話音等、他人の迷惑となる行為を慎むこと。 ・基本事項を憶えと同時に、論点については自分の頭で考え、一定の結論を導くこと。							
(10)質問、相談への対応及び連絡先	授業時間中、授業後、オフィスアワー等で質問・相談を受け付ける。メール（yosseki@shinshu-u.ac.jp）にて事前に連絡するのが望ましい。							
【教科書】	テキストは使用しない。毎回プリントと資料を配布する。							
【参考文献】	参考文献は講義時間内に示す。							